



今からほぼ 20 年前の 1988 年 7 月 10 日、静岡市井川の県民の森でシジミチョウの 1 種が福井順治氏によって採集されました。羽を広げて 2cm くらいと小型で、写真で分かるように白地に前ばねが薄い青紫色で縁取られた、たいへん美しいオスの蝶でした。これはサツマシジミといって静岡県で初めての発見で蝶の同好者たちを大変驚かせました。

それからちょうど 10 年後の 1998 年 7 月 8 日、今度は静岡市安倍奥の地蔵峠で 2 頭目が高橋真弓氏によって採集されました。

サツマシジミは国内では九州・四国のほぼ全域と中国地方の一部、東は紀伊半島まで分布し、奄美大島では極めて稀、沖縄には生息していないようです。国外ではヒマラヤ、インドシナ半島、中国大陆、台湾などに分布しています。

2 頭目の発見から 7 年後の 2005 年 12 月 6 日、御前崎市でメスが袴田和広氏により採集され、翌年 5 月 9 日、藤枝市に在住の小澤資朗氏が藤枝市時ヶ谷で採集したとの情報もたらされました。

これらの発見を契機に、近年、南の蝶が北上している例がいくつかあることから、県内の同好者は、飛んでいる時は普通種のルリシジミと思って見過ごしているのではないかという思いもあって、フィールドに出た時には注意をはらうようになりました。その結果、今年の 7 月、浜松市竜頭山、森町嵯塚で採集され、10 月 20 日ごろになって突然、藤枝市の谷稲葉で複数発見されました。藤枝市内はもとより、近隣の地域も丹念に調査したところ島田市、岡部町、静岡市西南部、吉田町、小笠山などからも発見されました。

秋に産卵された卵は孵化して幼虫などで冬を越し、春成虫となり、夏は山地に移動し、秋再び低山地に下りてくるものと考えられますが、詳しいことはまだ分かりません。また幼虫の食べ物は、南九州での観察によれば冬はクロキ、春はサンゴジユ、夏はサワフタギなどの花を食べることは分かっていますが、クロキがない静岡県では見当がつきません。